調査研究活動報告

絵画資料に描かれた中世の船

『日本絵巻大成』に見える船の画像一覧

Medieval Ships Depicted in Historical Pictures : Pictures of Ships Contained in *Nihon Emaki Taisei*

KOJIMA Michihiro

小島道裕

趣旨と対象

中世の船は実物が現存しないため、実態を知るには絵画資料に頼らざるを得ない。もちろん、絵画資料も、現実を写実的に描いたとは言えず、また絵が描かれた年代と同時代のものが描かれているとも言えないのだが、絵の制作目的や作画姿勢を勘案しながら、多くの事例を比較することで実態に近づいていくしかない。

本稿は、そのための基礎作業として、どの絵画資料のどの部分に、どのような船が描かれているかの情報を整理しようとしたものである。対象としては、中世の作品についてのまとまった図集が出ている絵巻物類を取り上げた。具体的な作業としては、『日本絵巻大成』、『続日本絵巻大成』、『続々日本絵巻大成』（いずれも中央公論社、計五五巻）の船が描かれている場面について、その巻と頁を示すことで索引の機能を果たすようにした。絵巻物はこれ以外にも多数存在するが、簡便に参照できるこの図集によって、描かれた船についての概要は把握できるのではないかと思う。絵巻以外の絵画については、今回は力及ばず、補足として若干の例を挙げるにとどめた。

一覧表について

表の各項目について説明すると、下記のようである。

①絵巻名称

『日本絵巻大成』『続日本絵巻大成』『続々日本絵巻大成』の巻数と絵巻の名称

（所収参考図についても有用と思われるものは挙げた。）

②頁

対象とする場面がある該当巻の頁

③規模と数

対象とする場面に描かれた船のおよその規模とその数

規模は便宜的なものだが、およそ、本格的な屋形や楼のあるものは「大」とし、「中」・「小」は乗っている人間の数や装備などによって適

宜判断した。

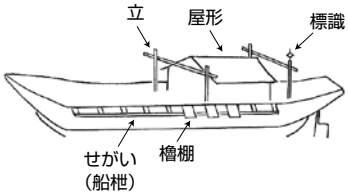
④場所

絵の情景の中で船が描かれている場所の区分。海、川、湖、池など。停泊中のものについてはその旨を記した。

⑤漕者・乗客・装備など

船に描かれた人間のうち、櫓・櫂・棹を用いているものを「漕者」とし、その人数を記した。片側（左舷・右舷）しか見えない場合は二倍してある。「乗客」はそれ以外の、客として乗っている人物の数。分かちがたい場合は全体を「乗員」とした。

「装備など」としては、船の基本的な船体以外の描かれているものを列挙した。帆柱、帆、屋形、屋根、舵、碇、轆轤（巻上げの滑車）、櫓棚、櫓、櫂、棹などである。それぞれの名称は、石井健治『日本の船を復元する』などを参考に、下記のように記述した。(註)



櫓・櫂・棹は区別しにくいが、どれかを記す必要があるため、大きさや使い方などで適宜判断した。

⑥備考（種類、地名など）

船が特定の種類のものである場合、その名称を記した。遣唐船、蒙古船、竜頭船、など。

地名は、描かれている場所や地域を特定できる場合、その地名を記した。架空の物語である場合はその旨を記した。

⑦年代

絵巻の制作年代については、奥書等で判明するものもあるが、絵や筆跡からの推定にとどまるものが多い。本稿はその詳細について論じる趣旨ではないため、『日本絵巻大成』の解説や『角川絵巻物総覧』を参考に、およその目安として、時代および世紀を記した。

補足

本稿は情報の整理を目的としたものであり、特段の考察は意図していないが、一覧表を作成して気づいた点を多少補足しておきたい。

船の構造としては、表には特に記していないが、ほとんどは、刳船ないし船首・胴・船尾を結合した複材の刳船、あるいはそれに舷側の板を増して大型化した「準構造船」と呼ばれるものであり、描写からもそれが分かるものが多い。

外洋船はそれとは異なり、「吉備大臣入唐絵巻」「東征伝絵巻」などに描かれた遣唐船や、あるいは「蒙古襲来絵詞」に描かれた蒙古船は、さらに本格的な構造船と思われる。これらの外洋船・外国船として描かれた船は、舳先（および多くは艫も）が二つに分かれた形に描かれているが、後世の作品でも「異国船」の表象として描かれており（「清水寺縁起」）、また物語の中の空想的な船にも用いられている（「男衾三郎絵詞」「箱根権現縁起」）。

描写の詳しさについては、一覧の「装備」等についての欄を見ると分かる。寺社縁起や祖師伝の類ではあるが、「北野天神縁起」「松崎天神縁起」「法然上人絵伝」「一遍上人絵伝」「真如堂縁起」などには特に大きく詳細に描かれたものがあり、絵巻制作当時の実態が反映されていると思われる。一覧表では、よく引用される絵には、備考欄に◎を付けておいた。

絵巻物類は、鎌倉時代ころに多く制作されており、本一覧の作品も大部分はそうである。室町時代の絵巻で船が比較的多いものとしては、「日蓮聖人註画讃」「真如堂縁起」などがある。

室町時代の絵画としては、屏風絵が多く描かれているのだが、船を大きく描いたものは少ないようで、『日本屏風絵集成』を見ても、壇ノ浦

の合戦などを描いた「平家盛衰図」（一六世紀）、停泊する大型船が描かれた「浜松図屏風」（一五世紀）が目に付いた程度であった。西洋から来航した「黒船」を描く南蛮屏風については、『南蛮屏風集成』が既にまとめられている。

この他の例としては、年代不明のものが多く写実とも言いがたいが、「熊野十界曼荼羅」の下部にもしばしば海を行く船が描かれていることに気づいた。他にも様々な絵画に船が描かれているはずだが、すべて他日を期したい。

表　『日本絵巻大成』に見る船の一覧

絵巻名称	頁	規模と数	場所	乗員・乗客・装備など	備考（船の種類、地名等）	絵巻の年代
三　吉備大臣入唐絵巻	二－三	大一	海	乗員五、甲板、帆柱二、屋形（唐破風）、楼二、太鼓、旗、轆轤、舵	遣唐船◎	平安時代、一二世紀
	三－四	小一	海	漕者一・櫓		
八　年中行事絵巻	五一	小一	池	漕者四・棹、乗客八	竜頭船	原本：平安時代、一二世紀
	五二	小一	池	漕者四・棹、乗客八	鷁首船	
一二　男衾三郎絵詞	八	小一	池	屋形（檜皮葺）、舳先・艫が二つ	物語	鎌倉時代、一三世紀
	三八－三九	大二	海	帆柱・帆（筵帆）・帆綱のみ	物語	
一二　伊勢新名所絵歌合	六四	小二	川、停泊	屋形（草葺）、立	伊勢国度会郡川辺里	
	八一	中二、小一	海、停泊	屋形（板葺）、立、櫓、櫓棚	伊勢国三津湊	
	八三	小一	海	漕者一・櫓、乗客二		
一四　蒙古襲来絵詞	八〇－八一	中一	海	漕者六・櫓、乗客九、楯	博多付近	鎌倉時代、一三世紀
	八三－八六	中四	海	漕者各四～五・櫓、乗客四～六、舵	博多付近、一部部分	
	八八－九〇	大二	海	漕者各四・櫓、乗客七～九、館、立、せがい、櫓棚、舵、碇、小舟を曳航、桶	博多付近、蒙古船に向かう兵船◎	
	九六	小一	海	熊手	博多付近、前部のみ	
	九六－九七	大一	海	碇、轆轤、甲板、帆柱の台、窓、艫楼、旗、舵	博多付近、蒙古船	
	九八－一〇〇	大三	海	碇、轆轤、甲板、帆柱の台、窓、艫楼、旗、舵、漕者四・櫓	博多付近、蒙古船◎	

一四　蒙古襲来絵詞	一〇〇－一〇一	中二	海	後欠、櫓	博多付近、蒙古船	
	一〇三	大？一	海	船尾？のみ	博多付近、蒙古船	
	一〇四－一〇五	中二	海	船首のみ	博多付近、蒙古船	
	一〇六－一〇八	大三	海	甲板、艫楼、旗、舵、櫓、碇・碇石	博多付近、蒙古船	
一六　東征伝絵巻	六	大一	海	乗員一九　帆柱二、網代帆、楼台三、船尾楼、太鼓、旗、屋形（緑瓦）、轆轤、舵	遣唐船◎	
	九－一〇	大一	海、建造中	楼台、屋形	遣唐船	
	一四	小二	海	櫓		
	一四－一五	大二	海	帆柱・網代帆、轆轤、屋形（緑瓦）、難破	遣唐船	
	一六下	大一	海	屋形、楼二、轆轤	遣唐船	
	一七上	中一	海	屋形、楼、轆轤		
	二六－二七	小一、大一	海	帆柱・網代帆二、轆轤、屋形（緑瓦）、楼		
	※	以下、同じ船が、二八－二九頁、三〇－三一頁、三二－三三頁、三三－三四頁にも描かれているが、省略。				
	三八－三九	大一	海	帆柱・網代帆二、楼二		
	四二－四三	中四、大一	海	帆柱二、楼、櫓	揚子江	
	四四－四五	小二、大四	海	帆柱・網代帆二、屋形（緑瓦）、楼、太鼓、轆轤、櫓	遣唐船（藤原清河、吉備真備ら）	
	四六－四七	小一	海	漕者二・櫓、乗客四		
	四八－四九上	小一、中一	海	漕者二・櫓、乗客一二		
	四八－四九下	小二、大四	海	帆柱・網代帆二、屋形（緑瓦、二階）、楼、轆轤	遣唐船	
	五〇－五一	小六、中二、大三	海	帆柱・網代帆、楼、太鼓	遣唐船	

一七　華厳宗祖師絵伝	九	小一	海?	漕者一、櫓		新羅国の華厳宗祖師伝 鎌倉時代、一三世紀
	一五－一六	大一	海	乗員七、帆柱二、網代帆、滑車、碇、櫓、舵、旗	唐への勅使船	
	四八－四九上	小二、中二	海、停泊	屋根（網代）、櫓、舵、轆轤、碇、杭		
	四八－四九下	大一	海	帆柱・網代帆二、楼、轆轤、碇、舵、太鼓、旗		
	五〇－五一上	小一、大一	海	帆柱・網代帆二、楼、轆轤、碇、舵、太鼓、旗、櫓		
	五〇－五一下	中一	海	屋根（緑瓦）、櫓、櫂、梶		
	五一－五二	中三	海、停泊	帆柱、轆轤、碇、屋根（網代）		
	六四	小二	海、停泊	碇		
	六五－六六	大一	海	帆柱・網代帆二、楼、太鼓、旗、舵、轆轤、碇		
	六九	小三	海、停泊	櫓、轆轤、碇		
	七三	大一	海	帆柱・網代帆二、楼、太鼓、旗、舵、轆轤、碇	唐から帰国する船	
	七四－七五	大一	海	帆柱・網代帆二、楼、太鼓、旗、舵、轆轤、碇	竜の背に乗る	
一八　石山寺縁起	一八	小二	湖、停泊	杭	大津の浦	鎌倉時代、一四世紀初
	三八	小三	湖、停泊	杭	琵琶湖、石山寺付近	
	六八－六九	小四	川、漁	一～二人、櫓、櫂、四手網、桶	宇治川	
二一　北野天神縁起（承久本）	一九	大一	海	漕者一〇・櫓、乗客七＋、屋形（板葺二）、倒した帆柱、巻いた筵帆、せがい、櫓棚、立、篝火の籠、熊手	瀬戸内海（浪速）◎	鎌倉時代、一三世紀
同（弘安本断簡）	八一	大一	海	漕者六・櫓、乗客一三、屋形（板葺）、屋根、倒した帆柱、巻いた筵帆、碇・碇石、立、桶、せがい、櫓棚、幕、犬	瀬戸内海◎	鎌倉時代、一三世紀

二一一　彦火々出見尊絵巻	四－六	小二	海	漕者一・櫓、乗客一、	物語	原本：平安時代、一二世紀	
	二二－二三	小一	海	漕者一・櫓、乗客三	物語、鷁首船		
	三〇－三一	小一	海	漕者一・櫓、乗客三	物語、鷁首船		
	三六－三七	小一	海	漕者一・櫓、乗客一、荷物	物語		
	三六－三七	中一	海	漕者一・櫓、乗客五、屋形（装飾）	物語、鷁首船		
	三八－三九	大一	海	漕者四・櫓、乗客四＋、屋形（緑瓦）	物語、竜頭船		
二一二　浦島明神縁起	五二	小一	海、停泊	櫓	物語	室町時代、一五世紀	
	五五	小一	海	漕者一・櫓	物語		
	五六－五七	小二	海	漕者一・櫓、乗客一	物語		
	五九	小二	海、停泊	櫓	物語		
二一三　駒競行幸絵巻	五〇－五三	小二	池	漕者四・棹、乗客三～四	高陽院、竜頭船・鷁首船◎	鎌倉時代、一三世紀	
二一六　西行物語絵巻	八九	小一	川	漕者一・櫓、乗客一五	天竜川	原本：室町時代、一五世紀	
別巻　一遍上人絵伝	二〇	小一	海、停泊	杭	伊予国	鎌倉時代、一四世紀	
	五五－五六	小一	海	乗員一・櫂	天王寺		
	六五－六六	小四	川	漕者各一・棹、乗客三～六	熊野川		
	七三－七四	小四	川	乗員一～五	熊野川		
	一〇〇	小一	川	漕者一・棹、乗客三	備前国福岡市		
	一三四	小一	川、停泊	杭	常陸国		
	一五六	小一	川	漕者二・棹、乗客三	富士川		
	一五七	小七	川、船橋		富士川		
	一七〇	小三	海	漕者各一・櫓、乗客三～五	片瀬の浜		
	一七七	小一	湖	漕者一・櫓、乗客二	大津の浜		

別巻　一遍上人絵伝	一九九	小一	川	乗員一、籠二	桂川、鵜飼船	
	二七一－二七二	小一、中二	海	漕者各一～二・櫓・櫂、乗客三～四、屋根、碇、米俵	厳島	
	二七二	大二、小一	海、停泊	屋根、立、櫓、杭	厳島	
	二九〇－二九一	小三	海	漕者各一・櫓、乗客八～一〇、	阿波国	
	三〇二	小一	海	櫓	兵庫輪田の泊	
	三〇三	大三	海	帆（筵）のみ	輪田泊沖	
	三〇五	小三	海	浜辺から綱で引く、漕者各一・櫓、乗客五～九、柱	明石の浦	
	三三二	小一、中三	海、停泊	屋根、碇、杭	明石の浦	
	三三三－三三四	大一、小一	海	漕者六・櫓、乗客四、米俵、帆柱、巻いた筵帆、せがい、櫓棚、碇、舵、桶	明石の浦◎	
続二　法然上人絵伝	一四五－一四六	大二	川	漕者各二（棹）、乗客九～一九、屋形（板葺、檜皮葺。一つは唐破風）、幔幕、縄	鳥羽	鎌倉時代、一四世紀
	一四六－一四七	小一、中四、大一	海	屋根、立、標識、碇、楯、桶、籠	摂津国経の島	
	一四八－一四九	中六、大一	海、停泊	屋形（板葺）、屋根、巻いた筵帆、せがい、立、標識、碇・碇石、縄、桶	播磨国高砂浦　部分のみ	
	一五〇－一五一	小一、大一	海	小：漕者一、乗客二　大：乗員一七、屋形（板葺）、立、標識、櫓棚、舵、碇、縄	室、法然の船と近づく遊女の船◎	
続四　慕帰絵詞	五五上	小一、大一	海	帆柱・筵帆二、屋形、立、舵	松島（遠景）	南北朝時代、一四世紀
	五四－五五下	大六	海、停泊	屋形、帆柱、杭	松島（遠景）	
	七四－七五	小四、大一四	海、航行・停泊	帆柱・筵帆二、屋形、立、舵	松島（遠景）	
続五　弘法大師行状絵詞（上）	三二－三三	小一、大二	海	帆柱・網代帆二、屋形二（瓦葺）、船尾楼、櫓、轆轤、碇	遣唐船	南北朝時代、一四世紀

続五　弘法大師行状絵詞（上）	三四－三五	小一、大一	海	帆柱・網代帆二、屋形二（瓦葺）、船尾楼、櫓、轆轤、碇	遣唐船
続六　弘法大師行状絵詞（下）	六二－六三	中二	川	漕者各二・櫓、屋形（桧皮と装飾）	紀ノ川、橋本
続七　玄奘三蔵絵（上）	一七六	中二	川	漕者二・櫓、屋根（網代）、舵	ガンガー川
	一八二	中一	川	屋根（網代）　船首のみ	
続八　玄奘三蔵絵（中）	一七四－一七五	小四、中一、大一	川	小：漕者各二（櫂）　中・漕者四（櫂）　大：屋形（緑瓦）	ガンガー川、竜頭船
続一〇　華厳五十五所絵巻	五八－五九	小四	―	櫂（「婆施羅船師」が櫂全体を手に持つ）	物語
続一二　山王霊験記（参考図）	九二－九三	大二	海	帆柱・帆、屋形、立、舵	明州ニ着
続一三　道成寺縁起	八六－八七	小一	川	漕者一・櫂	日高川
続一四　春日権現験記絵（上）	三二－三三	小一	池、停泊	櫂	
続一六　松崎天神縁起	一六－一七	大一	海	漕者六・櫓、乗客一四、犬、屋根、屋形（板葺）二、倒した帆柱、巻いた筵帆、立、せがい、櫓棚、碇・碇石、縄、桶、舵、標識、楯、小舟を曳航、桶、柴	瀬戸内海（筑紫行）◎
	六一	中六	海、停泊・航行	屋形、屋根、立、櫓	瀬戸内海の情景
続一九　大江山絵詞	八一－八二	小一、大一	海	小：漕者一・櫓・乗客二　大：漕者六・櫓、乗客七、帆柱・筵帆屋形（板葺）、立、せがい	浪速津から博多津へ
続々一　善信上人親鸞伝絵	八四	小一	湖	漕者一・棹	芦ノ湖
続々二　日蓮上人註画讃	一九	小一	海	漕者二・櫓・櫂、乗客一	鎌倉由比ヶ浜
	一九	小一	海、停泊	櫓、巻いた筵帆、杭	
	二〇－二一	小四	海	漕者各一、乗客三～四	伊東の浜、漁船
	三二	中一	海、停泊	屋根（草葺）、櫓	蒙古船、舳先が二つ
	四五	小一、中二	海、停泊	屋根（草葺）、櫓、帆柱？	
	五一上	小一、中三	海、停泊	屋根（草葺）、櫓、帆柱？	越後国寺泊津

鎌倉時代、一三世紀	
鎌倉時代、一三世紀	
鎌倉時代、一三世紀	住吉如慶模模本の転写本
鎌倉時代、一四世紀	
鎌倉時代、一四世紀	
鎌倉時代、一四世紀	
鎌倉時代、一三世紀	
室町時代、一六世紀	

	五〇下	中一	海	漕者二・櫓・櫂、乗客二	佐渡へ	
	六〇	中一	海	漕者二・櫓・櫂、乗客四、帆柱・巻いた筵帆	佐渡から柏崎へ	
続々三　西行法師行状絵巻	二四	小一	海、停泊	陸上に碇、縄	江口の里	原本：室町時代、一五世紀
	二八	小一	海	漕者一・櫓、乗客一	浪速	
	六〇－六一	小一	川	漕者一・櫓、乗客一四、馬	天竜川の渡し	
続々四　頬焼阿弥陀縁起	六一	小一	海、停泊		大磯	鎌倉時代、一四世紀
続々五　清水寺縁起	二〇－二一	小四、大一	海	漕者一・櫓、屋形（桧皮葺）二	津軽海峡　蝦夷の軍船	室町時代、一六世紀
	二二－二三	小二、大二	海	屋形	津軽海峡　蝦夷の軍船	
続々五　真如堂縁起	六八－六九	小四、大一	海	帆柱・筵帆二、屋形（檜皮葺、板葺）、立、せがい	遣唐船	室町時代、一六世紀
	七〇	大一	海	帆柱・筵帆二、屋形（檜皮葺・板葺）、立、せがい、舵	遣唐船（帰国中）◎	
続々六　東大寺大仏縁起	一〇－一一	中一	海	漕者一・櫓、乗客六	物語、竜頭船	室町時代、一六世紀
	一〇六－一〇八	小四	海	漕者各二・櫓	周防灘、材木運搬と海賊	
続々六　二月堂縁起の参考図「神功皇后縁起」	一五四	大一＋帆	海	屋形（桧皮）二、帆柱二（筵補、布帆）、楼二、せがい、梶、小舟一	渡海船	室町時代、一五世紀
続々七　箱根権現縁起	五	大一	海	帆柱・筵帆、屋形（板葺）二、立、櫓棚	物語	鎌倉時代、一四世紀
	九	小一	海	舳先・艫が二つ	物語	

註

「立」の柱の上に、角を上にした小さな四角い板が棒に付けて立てられていることがある。これについて、『新版絵巻物による日本常民生活絵引』は「風見?」としているが（第五巻五九頁、「法然上人絵伝」の解説）、描かれた模様が船によって異なり、「松崎天神縁起」一六－一七頁の船では艫に下げられた楯の模様と一致するため、船を識別するための「紋」と判断し、本稿では「標識」と記した。表の用語には、他にも適当でないものがあるかもしれないが、あくまでも情報検索のための便宜的なものであり、主張するものではないことを諒解されたい。

参考文献

『日本絵巻大成』小松茂美編、中央公論社、一九七七年～一九七九年、全二七巻
『続日本絵巻大成』小松茂美編、中央公論社、一九八一年～一九八五年、全二〇巻
『続々日本絵巻大成』小松茂美編、中央公論社、一九九三年～一九九五年、全八巻
『角川絵巻物総覧』梅津次郎監修、宮次男・真保亨・吉田友之編、角川書店、一九九五年
『新版絵巻物による日本常民生活絵引』澁澤敬三・神奈川大学日本常民文化研究所編、一九八四年
石井謙治監修『日本の船を復元する―古代から中世まで―』学研、二〇〇二年
石井謙治『和船Ⅱ』法政大学出版局、一九九五年
『日本屏風絵集成』武田恒夫他著、第一出版センター編、講談社、一九七七年～一九八一年
『南蛮屏風集成』坂本満編著者代表、中央公論美術出版、二〇〇八年
小栗栖健治『熊野観心十界曼荼羅』岩田書店、二〇一一年

（国立歴史民俗博物館研究部）

（二〇二〇年一月二七日受付、二〇二〇年七月九日審査終了）